

岩国飛行場への KC-130 移駐に関する市長コメント

普天間飛行場は、戦後 69 年が経過した現在も本市のど真ん中に存在し、米海兵隊の航空基地として運用されていることから、宜野湾市民は、常に航空機事故の危険性や航空機騒音をはじめとする基地負担を負い続けております。

普天間飛行場に配備されております KC-130 については、1996 年の SACO 合意において、岩国飛行場への移駐が合意されておりましたが、この度、沖縄県に集中する基地負担の軽減を図るため、山口県及び岩国市のご英断と日米両政府関係者のご尽力によって、現在、普天間飛行場に配備されている 15 機の KC-130 が本日(7月15日)より、順次、岩国飛行場へ移駐される運びとなりました。普天間飛行場を抱える地元宜野湾市を代表し、関係各位へ改めて御礼申し上げます。

また、岩国市議会におかれましては、去る 6 月 23 日に「沖縄県の基地負担軽減を図るための決議」を可決し、7 月 3 日には沖縄の基地負担軽減のための全国的な協議を呼びかけるなど、沖縄の基地負担軽減に向けた取り組みに敬意を表するとともに、感謝申し上げます。

現在、政府・沖縄県・本市で構成する「普天間飛行場負担軽減推進会議」において、普天間飛行場の 5 年以内運用停止をはじめとする負担軽減について取り組んでいるところでございますが、KC-130 全 15 機の移駐は、まさに目に見える形での負担軽減であり、その効

果に大変期待しているところであります。

日米両政府におかれましては、移駐の効果が損なわれることがないよう、KC-130 移駐の効果の検証及び検証結果の公表を行っていただくとともに、「普天間飛行場負担軽減推進会議」等をおし更なる負担軽減と、一日も早い閉鎖・返還の実現について特段のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 26 年 7 月 15 日

宜野湾市長 佐喜眞 淳